

# けんせつ小町・「チーム愛」の取り組みと効果

鈴木 翔太<sup>1</sup>

<sup>1</sup>愛知県道事務所 計画課 (〒464-0066名古屋市千種区池下町2-62)

愛知県道事務所では、建設業界での高齢化の問題に対し、担い手確保の一環として女性が働きやすい建設現場の環境整備を図るため、愛知県道事務所の事業に関係のある女性技術者を中心に『けんせつ小町・「チーム愛」』を結成しました。

本報告は、「チーム愛」の活動を通して、官民一体による人材確保・人材育成への取組とその効果について報告するものです。

キーワード：女性活躍推進、けんせつ小町、働き方改革

## 1. はじめに

建設業界の現状としては、建設就業者数を年齢別にみると、55歳以上が約34%、29歳以下が約11%でありその差が広がりつつあることから高齢化が進行しており、次世代への技術承継が大きな課題となっています。

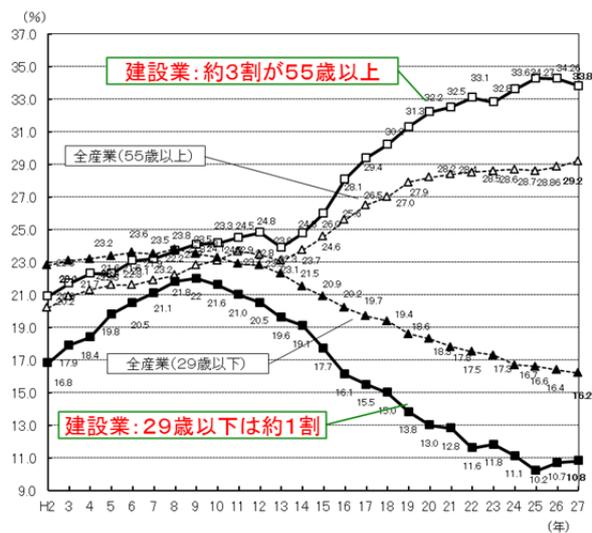


図-1 年齢別就業者数の推移<sup>1)</sup>

また、女性就業者の現状としては、全産業の就業者中に占める女性の割合は約43%であり、非製造業を中心に上昇傾向にあります。一方、建設業においては、他産業に比べて低く約15%であり、更に技能労働者<sup>\*</sup>に限定してみると、その割合は約2%となっています。

<sup>\*</sup>技能労働者：建設業の生産工程従事者、建設・探掘従事者、輸送・機械運転従事者

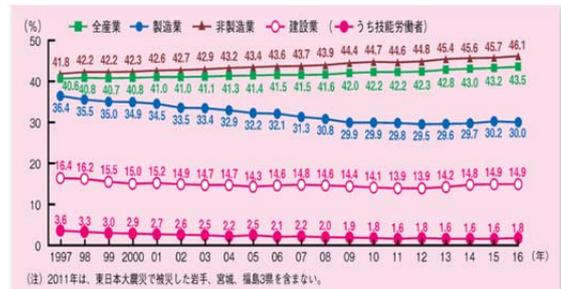


図-2 職種別の女性就業者の割合<sup>2)</sup>

これらを踏まえ、平成26年度に国土交通省と建設業5団体<sup>\*</sup>は、「もっと女性が活躍できる建設業行動計画」を策定し、女性技術者等の5年以内の倍増を目指して官民で様々な取組がスタートしました。

<sup>\*</sup>(一社)日本建設業連合会、(一社)全国建設業協会、(一社)全国中小建設業協会、(一社)建設産業専門団体連合会、(一社)全国建設産業団体連合会

## 2. けんせつ小町・「チーム愛」結成に向けて

愛知県道事務所では、名古屋環状2号線(名古屋西～飛鳥)(以下「名2環」という。)の工事が最盛期を迎えており、多くの建設会社、建設コンサルタント会社と関わりがあり、その中には女性技術者も携わっています。また、当事務所の職員にも、女性技術者の先駆者、子育て世代、社会人になったばかりの若手まで幅広い年代の女性技術者が業務を行っています。これらを踏まえ、平成27年9月に、愛知県道事務所職員、建設会社・建設コンサルタント会社社員及びインターンシップ中の学生らによる年齢も立場も異なる10名により、建設業の魅力や女性が働きやすい職場環境のあり方などについて議論する女性技術者同士の座談会を開催

しました。



写真-1 座談会の様子

座談会では、建設業の魅力として「大きな仕事に携われる」「トンネル現場で少しずつ距離が延びていくのを見て「これを造ったんだ」という実感がやりがいに繋がる」等、誇りの持てる仕事であるといった発言がありました。その反面、職場環境面では、「トイレに清潔感がない」のほか、かつて女性がトンネル工事に携わることを禁じた労働基準法などの「制度の壁」、女性技術者を受け入れる男性の抵抗や女性本人の不安といった「心の壁」、女性の「体力の壁」など「三つの壁」が存在したとのマイナス面の発言もありました。

その他、「残業や休日出勤が多く、結婚・出産と同時に女性技術者が退職せざるを得ない」「育児休暇などの仕組みが整っても、そのしわ寄せが、同僚に及ぶと感じられる限り、制度の利用は難しい」、また「工事現場の簡易トイレが国道沿いであって周りの目が気になる」等女性技術者ならではの悩みもありました。

座談会の最後には、「男女問わず当たり前に行なえる環境をつくっていかう」と呼びかけがあり、それぞれ思い思いの意見が交わされ、次世代を担う女性技術者の入職を促進するためにも、声を上げ改善を訴えていくことが重要であることが確認されました。

### 3. 「チーム愛」結成！

座談会での意見を踏まえ、愛知国道事務所では、女性技術者の更なる交流促進と女性技術者が働きやすい建設現場の環境整備に繋げることを目的に、平成28年9月に愛知国道事務所の事業に携わっている女性技術者を中心に、『けんせつ小町・「チーム愛」』を結成しました。メンバーは、前年度の座談会出席者を中心に新たなメンバーを加え総勢17名で結成しました。



図-3 チーム愛のロゴ

ロゴは、今後の広報等による「チーム愛」の周知を目的に作成し、見る人に愛着を持ってもらうため、女性をイメージした赤を基調としています。

「チーム愛」の名前の由来は、愛知国道事務所の「愛」、建設業界への「愛」、女性の愛らしさの「愛」といった3つの「愛」から命名しました。

活動目標としては、

- 女性技術者が活躍できる建設環境整備
- 女性技術者の増加
- 幅広い業種・世代での女性技術者における交流の場を創出

の3つを主な目標に掲げています。

また、活動を長く続けていくためにも、あまり形式張ったものとせず、気楽にぞっくばらんな意見交換ができ、女性技術者同士の親睦が深まりやすいよう可能な限り女性主体で行うことを基本にしています。

### 4. 「チーム愛」による取り組み

#### ① メンバー構成（平成30年度4月時点）

「チーム愛」のメンバーは、愛知国道の事業に関わりのある女性技術者を基本としており、愛知国道に在席またはかつて在席していた国交省職員、愛知国道発注工事等の建設会社社員、建設コンサルタント会社社員が参加しています。国土交通省で初のトンネル工事現場監督経験者をはじめ、子育て世代や次世代を担う若手まで幅広く、年齢も立場もさまざまな女性技術者37名で構成しています。



写真-2 チーム愛メンバー

## ② 女性が活躍している現場の視察

平成28年9月に、実際に女性が活躍している工事現場で、トイレや更衣室の改善が進んでいる状況を視察しました。



写真-3 チーム愛による視察の様子（名2環現場事務所）

参加者からは、トイレが水洗であることや、清潔で匂いが気にならないなど、職場環境が整っていることに驚く女性技術者もいました。

視察後の意見交換では、女性が利用しやすいトイレの整備が進む一方で、「女性用の休憩室を設置すべき」といった意見がありました。これに対し、現場環境への改善に向け「遠慮せず声を出して要望すること、設備や制度が整備されたら遠慮せず使い続けることが大切。後に続く後輩のためにも積極的にアピールしなければ」といった意見も出されました。

## ③ 環境改善に向けた提案

「チーム愛」では、環境改善に向けた現場視察、建設業界の魅力や女性が働きやすい職場環境のあり方などについての意見交換の結果をもとに、平成28年11月に愛知国道事務所管内の環境改善に向けた提案書をまとめ、「チーム愛」メンバーから愛知国道事務所長に手交を行い、更なる改善を要望しました。

『日本の明日を築き支える

「けんせつ小町」達からの提案書』の概要

1. 全ての工事現場に「快適トイレを設置」
2. 監督職員待機所の「トイレ環境の改善」
3. 監督職員待機所に女性技術者が集まり情報交換を行う「交流の場の創出」
4. 女性が働く場へ「休憩施設の設置」



写真-4 環境改善に向けた提案書を「チーム愛」から事務所長へ提出

## 5. 「チーム愛」からの提案を踏まえた愛国の取り組み

「チーム愛」からの提案書を受け、愛知国道事務所では名2環工事現場の監督職員と建設会社職員等が打合せなどで使用する監督職員待機所のトイレを快適トイレにするとともに、受注者の現場事務所における快適トイレの積極的な設置を働きかけました。



写真-5 女性休憩所「りんくるハウス」開所式

さらに、平成29年6月には、監督職員待機所の内部を一部改修し、女性技術者のための休憩所を設置しました。

女性休憩所設置に向けた待機所の改修に当たっては、「チーム愛」メンバーである愛知国道の女性技術者の監修により、畳敷きの休憩所に改修し、壁は落ち着いた色のある緑色にしました。

この休憩所の名称を「りんくるハウス」と名付け開所式を行いました。開所式に参加した「チーム愛」のメンバーからは、「りんくるハウスを活用し、勉強会などを定期的に開催し交流を図っていきたい」「建設現場で女性は体力的に厳しい作業もあるため、i-Constructionについての勉強会も開催したい、女性こそが率先してICT施工を学びたい」といった声が上がりました。

開所式では「1人で声を上げるより、意見交換で出た意見であれば会社に提案しやすい」などの声も聞かれ、「りんくるハウス」を拠点に「チーム

愛」の活動を更なる環境改善につなげていくことで確認されました。

なお、「りんくるハウス」という名称は、名2環の環状の「リング」と休憩所に「来る」の2つの言葉から命名しています。

## 6. 「チーム愛」の活動による効果

「チーム愛」の取り組みによる女性技術者の意識や会社の採用、広報面への波及効果を整理するため、女性技術者や企業の採用担当者等へのヒアリングを行いました。



写真-6 女性技術者へのヒアリング風景

企業の担当者からは『「チーム愛」の活動が始まる以前から女性活躍に関する取り組みは進めていたが、快適トイレの設置について「チーム愛」の働きかけがあり早期に現場設置が実現した。現在では女性の配置がされていない現場でも多く取り入れ、女性だけでなく男性にも働きやすい環境づくりに繋がっている』と言った声がありました。

また、女性技術者からは他企業との交流について「女性技術者で集まれるだけで繋がりができ、情報共有や電話で気軽に相談ができるようになった」といった意見があり、ソフト面での効果もあることが分かりました。

女性社員からの話の中では「女性活躍推進法に基づき女性活躍を推進する企業独自の計画『一般事業主行動計画』を策定し、全国に配属されている女性技術者の交流の場を定期的に設けている。そこで挙げられた課題について改善を行い、働きやすい環境づくりに役立てており、女性技術者の採用増加にも繋がっている」とのお話もありました。また「今後、女性社員による安全パトロールの実施、女性技術者の母校へ訪問し、リクルートを兼ねたゼネコンのイメージアップなど考えている」といった意見もあり、女性技術者の入職促進の為に「チーム愛」の活動とともに、各企業の継続的な取り組みが必要であることも分かりました。

またヒアリングでは、今後、チーム愛として取り組みたい活動内容について、「他工種の工事現場へ見学、特に自分の施工している下部工に上部工を架設する現場を見てみたい」「女性向けの作業着、道具を紹介して欲しい」と言った意見がありました。繋がりを広げていく上で見学会・勉強会の開催を求める声が多いことが分かりました。

表-1 ヒアリングでの主な意見

チーム愛の取り組みによる効果(女性技術者、採用・広報担当者からの意見)	
女性技術者の意識	・他の女性技術者との同士との繋がりができた(同じ立場で働いているので相談が容易)
現場環境への影響	・快適トイレが早期に設置(女性がいない現場でも設置されていて男性も働きやすい環境へ改善)
社内制度について	・結婚や出産の為に制度はあるので積極的に使っていかなければいけないという意識改善に繋がった ・女性技術者同士の交流の場の積極的な開催
企業の採用・広報への影響	・女性活躍の場を積極的に作り、現場/パトロールや交流の場の創出 ・企業HPにおける女性技術者活躍のアピール

## 7. 「チーム愛」の今後の展開と更なる女性活躍推進に向けた課題

「チーム愛」の取り組みやヒアリングを通して、今後女性活躍を推進する上での課題を整理しました。

表-2 今後の課題

更なる女性活躍推進に向けた課題(女性技術者、採用・広報担当者からの意見)	
女性技術者の意識	・繋がりを広範囲に拡大させて女性技術者での勉強会、交流の拡大・増加
現場環境への影響	・女性向けの作業着や道具があれば紹介・活用(i-Constructionの積極的な活用・更なる深化)
社内制度について	・制度を積極的に活用し、安心して働ける職場であること周知
企業の採用・広報への影響	・3K(きつい、汚い、危険)といった土木のイメージが学生や親に未だに残っているため、払拭が必要 ・土木を専攻する女性が少ない

「チーム愛」メンバーから出された意見に「学生の親のイメージの中に『土木の3K』が未だに残っているため、就職先について親から反対を受けた。それにより建設会社をあきらめているケースもあり、親を含めイメージの払拭をしたい」といったものがありました。このようなイメージを取り払う改善案としては企業等が積極的に女性技術者を採用・育成するとともに、活躍についてメディア等を通じて対外的に発信していくことが考えられます。今後、「チーム愛」においても建設技術フェア等のイベントや、企業独自のHPで活躍状況のアピールを考えています。

現場環境面では快適トイレ設置など環境改善は進みつつあるものの、女性技術者の多くが抱える「現場作業における体格・体力差」について課題が残っていると考えられます。こういった課題に対して、例えばi-Constructionの活用により現場における男女の体力差の解消に繋がると考えられます。

i-Constructionについては、現在国土交通省が中心となり全国的に推進しており、実際に、丁張り等

の作業が簡略化されることによる、体力面での省力化が確認されています。尚、平成30年度を「i-Construction深化の年」と位置付けられており、国土交通省では施策（工種）の拡大や要領、基準類の改定・策定を進めてきました。i-Constructionなど勉強会を積極的に開催することが重要と考えられ、「チーム愛」としては、これらの先進技術について積極的な現場への活用を目指して今後、活用事例を共有するための勉強会の開催を考えているところです。



写真-7 建設ICT勉強会の様子

また、企業の採用面での課題としては「そもそも土木を専門とした学校に所属する女性が少ない」ことも企業採用担当者の意見にあり、課題として考えられます。

この課題に対しては、採用段階での土木学生へのアピール以外にも、子供達への見学会や文系学生への説明会、事務職での採用者の土木技術の習得等が考えられます。愛知国道事務所としてもこれまでに文系大学生への建設業界の魅力に関する講演会を行うなど活動を進めていますが、今後より幅広い世代や職種希望者への発信が必要と考えています。



写真-8 文系大学生への講演会の様子（平成29年9月）

今後、これら様々な活動を行っていくことで、女性の建設業界への入職促進を図るとともに、女性技術者同士が横の繋がりを持つことで、結束が深まり様々な情報共有を行うことで、結婚、出産

後の離職の抑制にも繋がるのではないかと考えています。

「チーム愛」が目標に向けて様々な活動を行っていくことは建設業のイメージを変え、建設業界の人材確保および人材育成に有効であると考えられます。それにはより取り組みを大きな流れとするため、今後はまず愛知県内の国土交通省事業に携わる女性を対象とした活動拡大を図り、さらには県・市の事業を含めた愛知県全体に広げていくことで、「産×官×学が連携した女性技術者の育成・発展」を加速的に進めていきたいと考えています。

#### 参考文献

- 1) 出典：総務省「労働力調査」を元に国土交通省で算出
- 2) 出所：総務省「労働力調査」